

当面取り組むべき施策のあり方について

(1) 当面の取組みの方向性

第4次明日香村整備計画に基づく取組みについては、個々分野における課題はあるものの、「歴史的風土の創造的活用」の視点に基づく取組みの成果が目に見える形で現れてくるなど、総じて順調に進展。したがって、当面の期間は、基本的に現整備計画の取組みの方向性を継続する。

第4次明日香村整備計画に基づく取組み = 総じて順調に進展



- ・ 歴史的風土の創造的活用の視点に基づく取組みの成果
- ・ 個々分野における課題

第4次明日香村整備計画の期間（平成31年度まで）は、基本的に現在の方向性を継続

- ① 国家基盤が形成された地に相応しい歴史展示の推進
- ② 歴史的風土の維持・向上
- ③ 歴史展示及び歴史的風土を活用した地域活力の向上
 - ・ 明日香を支える「農」の維持・再生
 - ・ 観光・交流の振興
 - ・ 住みたくなる村づくり
- ④ 生活環境基盤整備の推進

成果の一例



飛鳥京跡苑池の発掘



景観阻害要因の改善



明日香夢の旬彩館の開設



明日香村近隣公園の開設

第1回小委員会の指摘事項

- ・ 5年前と比べて整備等が驚くほど目に見える形で進んでおり、徐々に良い状況が生まれつつある。[1.①]

(2) 当面の施策のあり方

国家基盤が形成された地に相応しい歴史展示の推進(1/3)

歴史展示の基本方針に対するフォローや、国・県・村など関係主体間の連携強化といった課題に対応した歴史展示の推進を図る。万葉文化館については、「歴史の総合展示施設」としての整備や関連施設間との役割分担の明確化といった課題に対応する。

現状に対する評価

●成果、効果 ▼課題

- ▼ 歴史展示の基本方針(H22、奈良県)のフォロー。
- ▼ 歴史展示における、国・県・村など関係主体間の連携強化。
- ▼ 万葉文化館を「歴史の総合展示施設」とするための再整備。
- ▼ 万葉文化館、飛鳥資料館、キトラ古墳周辺地区体験学習館の役割分担の明確化。



当面の施策のあり方

- 「明日香における歴史展示等のあり方基本方針」(H22.3 奈良県)について、その後のフォローアップを行うとともに、国・県・村など関係主体間での役割分担、連携方策などを再度整理し、それを踏まえた明日香の歴史展示を推進すべき。
- 万葉文化館については、基本方針のフォローアップ等を踏まえつつ、飛鳥史料館、キトラ古墳周辺地区体験学習館との役割分担も再整理した上で、歴史テーマや人物等により「歴史」を総合的に展示する機能の充実など、「歴史の総合展示施設」としての整備が必要。

第1回小委員会の指摘事項

- 東京で行われたキトラ古墳壁画展は大変な盛況ぶりであり、国内外から多くの関心が寄せられている。[1.③]
- 日本だけでなく世界の財産であることを、より広く理解してもらうことが必要。ビジュアルで分かりやすく説明し、さらに村民が十分に誇りと認識を持たないといけない。[2.1)②]



飛鳥資料館



万葉文化館



キトラ古墳周辺地区
体験学習館

(2) 当面の施策のあり方

国家基盤が形成された地に相応しい歴史展示の推進(2/3)

CG映像や携帯端末アプリケーションなどによる歴史解説・案内が成果として見えてきており、地中に埋もれた遺構を分かりやすく体感できるよう、引き続き周遊との組み合わせなどの展開が必要。

現状に対する評価

●成果、効果 ▼課題

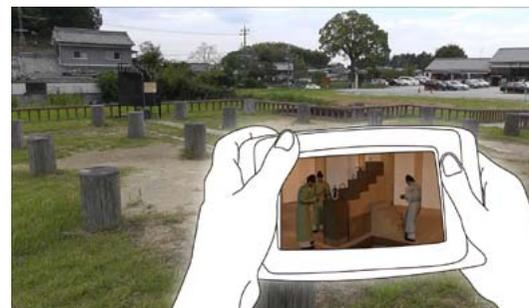
- 地中に埋もれた遺構を分かりやすく体感できるようコンピューターグラフィックス(CG)による復元映像や施設利用方法、築造過程の再現。
- GPS機能を活用した携帯端末アプリケーションによる明日香村の新たな歴史解説・案内の実現。
- 我が国の古代国家体制が形成された地である明日香の歴史を、誰もが体感・回想できる歴史展示を推進。
- ▼ CG映像による遺跡の復元が、まだ数カ所の遺跡に限られている。

第1回小委員会の指摘事項

- スマートフォンアプリにより、非常に見やすく分かりやすい形が作られている。[1.②]
- 地中の遺跡をもっと知らせる必要がある。[2.1)①]
- 遺跡の一部を復元してスケール感などが分かるようにするとともに、ビジュアルで分かりやすく説明し、さらに村民が十分に誇りと認識を持たないといけない。[2.1)②]

当面の施策のあり方

- コンピュータグラフィックスの活用による歴史展示については、本物の歴史体験の観点からの解説・周遊との組み合わせなど引き続きの展開が必要。



バーチャル体験

(2) 当面の施策のあり方

国家基盤が形成された地に相応しい歴史展示の推進(3/3)

遺跡の整備については、発掘調査は概ね順調に進捗しており、引き続き発掘調査を進めるとともに、目に見える形で整備する工夫とビジュアルで説明できる方法が必要。

現状に対する評価

●成果、効果 ▼課題

- 「飛鳥京跡苑池」の整備は、平成26年度より史跡整備の着工予定。
- 各史跡について発掘調査及び現地見学会を計画的に推進するなど概ね順調に進捗
- ▼発掘調査推進における、国・県・村など関係主体間の連携強化。

当面の施策のあり方

- 地中に埋まっている歴史文化遺産については、引き続き発掘調査を進め歴史的価値を明らかにするとともに、遺跡を目に見える形で整備する工夫とビジュアルで説明できる方法が必要。

第1回小委員会の指摘事項

- 歴史文化遺産が地中に埋まっいて見えないためガイドが必要であるが、多くの来訪者は景観に満足して帰ってしまうのがとても勿体ない。[2.1)①]
- 国庫を使って保存するからには、日本だけでなく世界の財産であることを、より広く理解してもらうことが必要。そのためには遺跡の一部を復元してスケール感などが分かるようにするとともに、ビジュアルで分かりやすく説明し、さらに村民が十分に誇りと認識を持たないといけない。[2.1)②]



飛鳥京跡苑池イメージ



飛鳥京跡苑池
発掘状況



牽牛子塚古墳

(2) 当面の施策のあり方

歴史的風土の維持・向上(1/2)

景観の形成について企業・ボランティア等の活動が展開されているが、窓口機能と効率的な対応に課題があり、受入システム構築が必要である。大字単位の景観計画が4大字で作成されているが、他の地域にも広め、集落特性に応じた将来像の議論や住民意識の向上につなげる。

現状に対する評価

●成果、効果 ▼課題

- 景観計画等が策定され、村民の景観に対する意識の向上が図られるとともに、村民の理解と協力の下、きめ細やかな景観形成を実施。
- 「新たな公」であるNPO団体・企業・大学等の景観ボランティア活動も展開され、明日香村に相応しい歴史的風土の保存に寄与。
- ▼ 集落単位の景観計画が、まだ村内4大字に限られている。
- ▼ 企業・ボランティア団体が参画しやすい窓口機能と効率的な対応。
- ▼ 神事や祭りなど歴史的風土を守る上で重要な活動の継続が、高齢化などにより難しくなっている。

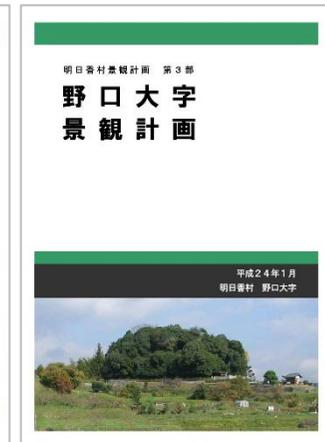


当面の施策のあり方

- 企業・ボランティアを受け入れる際の窓口機能や運営の仕組み、実行体制の確保など、受入システムの構築が必要。
- 大字単位での景観計画の成果を他の地域にも広め、集落特性に応じた将来像の議論、住民意識の向上などにつなげていくことが必要。



ボランティアによる景観形成



集落ごとの景観計画

(2) 当面の施策のあり方

歴史的風土の維持・向上(2/2)

景観阻害要因の改善については、生コンプラントの撤去や無電柱化が行われたが、資材置き場や電線、看板のほか、荒廃した里山などの課題が残り、改善に向けた継続した検討を続ける。

現状に対する評価

- **成果、効果** ▼ **課題**
- 生コンプラントの撤去による景観阻害要因の除却。
- 無電柱化の推進による景観阻害要因の除却。
- ▼ 景観阻害となっている建築物や荒廃した里山など、明日香村の景観に相応しくない案件が多く残る。

当面の施策のあり方

- 資材置き場や電線、看板など景観を阻害する物件や行為に対して、その改善に向けて継続した検討を行うことが必要。



生コンプラントの撤去



不調和な景観

第1回小委員会の指摘事項

- 国営公園から出た途端に隣にある駐車場のひどい光景が目に入る。公園の敷地外であっても国と村が連携して景観を守ってほしい。[2.2)①]



無電柱化の実施（島庄地区、川原地区）



資材置場

(2) 当面の施策のあり方

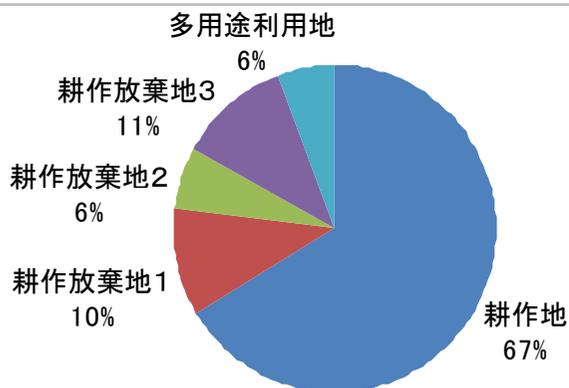
歴史展示及び歴史的風土を活用した地域活力の向上(明日香を支える「農」の維持・再生)

新規就農や集落営農への支援が行われているが、農の担い手不足や耕作放棄地の拡大は深刻な問題であり、農地の流動化や農作業の委託のための体制づくりを進める。また、定住促進策と連携した取り組みや6次産業化に向けたブランディングが必要。

現状に対する評価

●成果、効果 ▼課題

- 新規就農推進のための規制緩和や支援。
- 集落営農組織への活動支援。
- 地元農産物を活用したドレッシングやトルトル食品などの加工品開発支援。
- 農産物加工所「明日香夢の旬菜館」の開設と6次産業化の推進。
- 農業の生産性の向上及び耕作放棄地の解消のための取り組みを推進。
- ▼ 「農」の担い手不足が深刻。
- ▼ 農家の高齢化により耕作放棄地の増加がさらに加速することが予想される。
- ▼ 明日香らしい住まい方など定住促進策との連携。



耕作放棄地1:耕作されておらず、草刈等により耕作が可能な農地
 耕作放棄地2:基盤整備等を行なうことで、農地として利用可能な農地
 耕作放棄地3:森林・原野化しており、農地として復元不可能な農地

農地の活用状況



集落営農への活動支援

当面の施策のあり方

- 「農」の担い手不足が引き続き深刻な問題であり、公社などが農地の流動化や農作業の受託を進めるための体制づくりを進める必要。
- 新規就農支援のための農業組織の充実や、定住促進策と連携した取り組みが必要。
- 農業の6次産業化に向けては、より質の高いブランディングが必要。



農産物を活用した加工品の開発

(2) 当面の施策のあり方

歴史展示及び歴史的風土を活用した地域活力の向上(観光・交流の振興)(1/3)

観光ポータルサイトやナビシステムが構築されているが、統一した情報発信が課題であり、歴史ストーリー・人物を活用しつつ、世界基準に準じた内容の充実や見せ方の工夫が必要。また、「明日香まるごと博物館」の実現に向けた取り組みを推進する。

現状に対する評価

- **成果、効果** ▼ **課題**
- 観光ポータルサイトの構築。
- 観光ナビシステム「あすかナビ」による明日香の魅力発信の強化。
- ▼ 「みえる化」に対応した情報発信など、魅力的な情報発信を行うことで、国内外の旅行者にとって分かりやすいHPの内容や見せ方を工夫する必要がある。
- ▼ 統一した情報発信とその仕組みづくり。

当面の施策のあり方

- 明日香に関する統一した情報発信を行うため、歴史ストーリー・人物を活用しつつ、世界基準に準じた内容の充実や見せ方を工夫。
- 「明日香まるごと博物館」の実現に向け、明日香ならではの体験や空間の提供などの充実が必要。



携帯端末を活用した観光周遊



動画や音声ガイドによる案内

明日香まるごと博物館のイメージ

(2) 当面の施策のあり方

歴史展示及び歴史的風土を活用した地域活力の向上(観光・交流の振興)(2/3)

公共交通は観光周遊の観点から利便性の向上が課題であり、歴史を体感でき、安全性と快適性に優れた環境配慮型のEV車など、新たな設備導入に向けた検討と体制づくりが必要。また、レンタサイクルの安全性や機能性を高めることも必要。

現状に対する評価

●成果、効果 ▼課題

- 主要観光スポットを周遊するバス運行。
- ▼ 村内の公共交通について、観光周遊の観点からの利便性の向上、EV車などを活用した環境に配慮した交通手段の確保が必要。

第1回小委員会の指摘事項

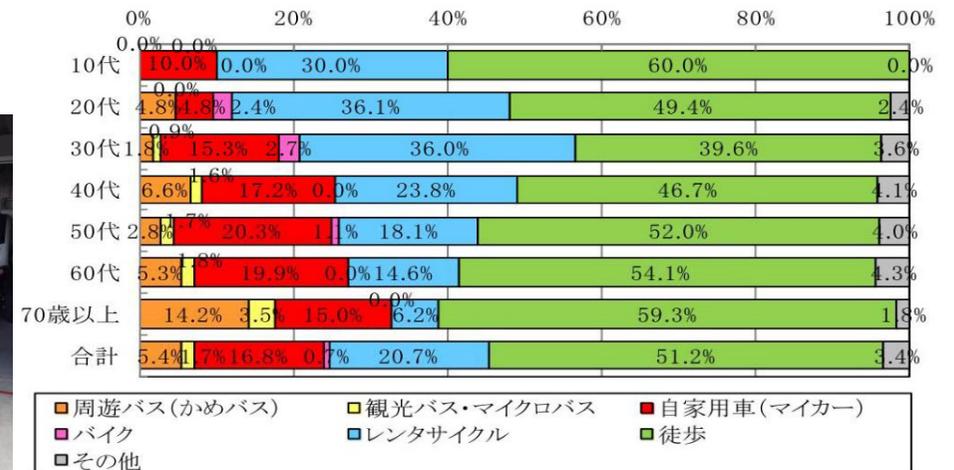
- レンタサイクルは自由に乗り捨てができて、情報を得ながら周れるシステムにはなっていない。また、自転車道と歩道が十分に整備されていないので、非常に危険な場面がある。歩行者・自転車・車それぞれが互いに文句を言っていて、楽しく巡るような仕掛けになっていない。[2.3]①
- 中心部の周遊は4kmほどで距離的には良いが、途中にステーションがないので、暑い日は日陰がなく、雨の日は雨宿りの場所が十分とは言えない。[2.3]②



周遊観光に適したEV車

当面の施策のあり方

- より利便性の高い観光周遊の実現のため、明日香の歴史を体感できる観光交通の導入など、住民生活の利便性にも配慮した新たな公共交通の整備を行うとともに、安全性と快適性に優れた環境にも配慮したEV車など新たな周遊交通の設備導入に向けた検討と体制づくりが必要。
- レンタサイクルを活用して観光情報を得ながら楽しく周遊ができるよう、自動車道・自転車道・歩道の安全性や機能性を高めつつ、休憩施設の整備や乗り捨てシステムの導入などの検討が必要。



H24明日香村観光実態調査
(来訪者の周遊交通の手段【年齢別】)

(2) 当面の施策のあり方

歴史展示及び歴史的風土を活用した地域活力の向上(観光・交流の振興) (3/3)

滞在型の観光に対応した宿泊施設やサービスが課題であり、ゲストハウスなどの施設の整備が必要。また、歴史体験、農業体験、生活体験などの体験メニューの充実といった課題に対し、農家民泊や教育旅行、トレイルウォーキングの推進が必要。

現状に対する評価

●成果、効果 ▼課題

- 文化財を活かした観光イベントによる、にぎわいの拠点形成。
- 農家民泊の推進によるインバウンドや教育旅行の誘致など宿泊観光の推進。
- ▼ 滞在型の宿泊施設やサービス。
- ▼ 歴史体験、農業体験、生活体験が出来る明日香らしい体験メニューの充実
- ▼ 体験インストラクターの高齢化に対応した受け入れ態勢の強化。



当面の施策のあり方

- 来訪者が住民になったような気持ちで、暮らすように旅をすることができるよう、古民家を活用したゲストハウスなど長期滞在型の宿泊施設の整備が必要。
- 郷土料理づくりや農作業などの体験メニューの充実を図るとともに、明日香村の歴史・遺跡・風習などの話を聞くことができる農家民泊や教育旅行の推進が必要。
- 奥飛鳥の棚田や飛鳥川など豊かな自然が溢れる農村風景を楽しむことができ、伝承芸能や神事の素晴らしさを体感できるトレイルウォーキングを推進すべき。

第1回小委員会の指摘事項

- 住民になったような気持ちで、暮らすように旅をするための設えやもてなしの対応は不十分である。[2.3)③]



ゲストハウスの整備



郷土料理づくり体験



奥飛鳥文化的景観の自然体験

(2) 当面の施策のあり方

歴史展示及び歴史的風土を活用した地域活力の向上(住みたくなる村づくり)(1/2)

空き家が増加する問題に対し、空き家バンクシステムの運営体制や利用希望者に対するフォローが必要。村の担い手確保に向けた住まいの提供に関しては、定住促進策と合わせた新たな住宅地の創出も必要。

現状に対する評価

●成果、効果 ▼課題

- 空き家・土地情報バンクシステムの充実、空き家の店舗利用。
- 都市計画法第34条第11号地区の活用などによる市街化調整区域の空閑地利用。
- ▼ 人口減少は依然として進んでおり、今後更なる空き家の増加が想定される。
- ▼ 新規就農や観光産業への従事などと連携した住まいの提供。

当面の施策のあり方

- 今後更に増加する空き家の利用促進に向け、空き家バンクシステムを運営する体制および空き家所有者や利用希望者に対するフォローの充実、システム化が必要。また、老朽化した空き家の管理手法の検討も必要。
- 市街化区域における住宅地の創出など定住促進の取組みが必要。



空き家バンクによる空き家の利活用

(2) 当面の施策のあり方

歴史展示及び歴史的風土を活用した地域活力の向上(住みたくなる村づくり)(2/2)

教育支援策が奏功し、子育て世代が流入している傾向があるが、子育てをしやすい環境づくりが課題となっている。子どもに対しては歴史・文化を学習する地域学を推進し、国内外からの来訪者へのガイド経験などを通じて人間関係調整能力を養うことが必要。

現状に対する評価

●成果、効果 ▼課題

- 教育支援策が奏功し、子育て世代が転入。
- ▼ 若者の人口流出の増大に対し、子どもを産みやすく育てやすい環境づくり。
- ▼ 人口減少、少子高齢化の原因分析。
- ▼ 人口動態に関する実態把握。

当面の施策のあり方

- 子どもたちが明日香村の歴史・文化を体系的に学習する地域学や生涯学習について、地域学習教材のあり方や内容の検証を進めるとともに、国内外からの多くの来訪者に対し、ガイド経験などを通じて明日香村の価値を発信できる人間関係調整能力を養うことが必要。

第1回小委員会の指摘事項

- 小中学生に対する地域学が誇りを育て、観光客に対してガイド経験を積むことで人間関係調整能力を養っている。そうして将来的には村に帰ってきてもらうという長期的な視点がある。[2.4)②]
- 小中学生が万葉集や明日香に関する歴史を英語で説明できるようになれば、様々な場所で外交官として活動することができる。[2.4)③]
- 人口減少の問題など、村の活性化の速度が遅い。2035年の人口推計では、14歳までの人口が現在から3分の1くらいに減る。整備が進み条件が恵まれているにも関わらず、人口が減る原因が何なのか考えないといけない。[2.4)①]



郷土学習「明日香学」の様子



伝承芸能発表会「八雲琴」

(2) 当面の施策のあり方

生活環境基盤整備の推進

道路や河川をはじめ、住民生活に関わる各種施設の整備については、地域住民の理解と協力が不可欠であり、引き続き第4次整備計画に基づく整備の推進が求められる。

現状に対する評価

●成果、効果 ▼課題

道路の整備

- 県道野口平田線の開通。
- ▼ 県道桜井明日香吉野線など文化財・景観配慮のための協議に時間を要しているものがあり、協議の進展が必要。

河川の整備

- 飛鳥川 神奈備の郷・川づくり事業、平田川の改修。
- ▼ 飛鳥川下流の多自然護岸工と植栽の実施
- ▼ 戒外川の河川改修

厚生施設の整備

- ▼ 健康福祉センターリニューアルに向けた取り組み。
- ▼ クリーンセンターの大規模改修に向けた検討。

教育施設の整備

- 明日香養護学校の耐震化の進捗。
- 幼稚園から中学校卒業までの連続性のある教育が一部実現。
- ▼ 飛鳥まるごと図書・資料館の整備に向けた取り組み。

当面の施策のあり方

- 歴史展示の推進、歴史的風土の維持向上及び地域活力の向上のためには、地域住民の理解と協力が不可欠であり、引き続き第4次整備計画に基づく生活環境基盤整備の推進が求められる。



県道桜井明日香吉野線 [石舞台付近]



県道野口平田線



飛鳥川神奈備の郷・川づくり事業（整備中）

(3) 当面の支援のあり方

第4次明日香村整備計画を推進するためには、定期的に把握・検証・評価を行うとともに、国・県・村が有機的に連携した総合的かつ効率的な施策展開が必要。明日香村歴史的風土創造的活用事業交付金は平成27年度以降も同様の措置を継続し、滞在型観光の実現に向けた取組みへの支援を図るべき。

当面の支援のあり方

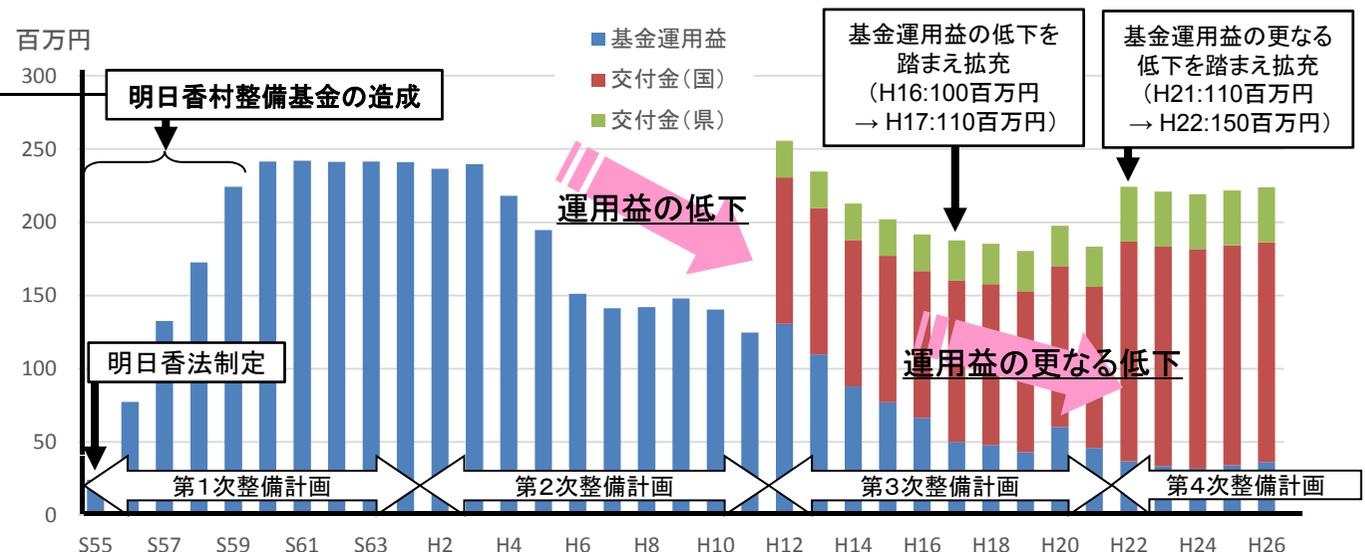
- 第4次明日香村整備計画の目標を達成するためには、国・県・村の有機的連携の下に総合的かつ効率的な行政施策の展開が必要。
- 奈良県が中心となって各種施策の実施状況を定期的に把握・検証・評価を行うとともに、村の財政状況が厳しい中で、整備計画の推進及び明日香村の歴史的風土の保存のため、引き続き、国、県による計画達成に向けた努力や支援が不可欠。
- 明日香村歴史的風土創造的活用事業交付金については、明日香村整備基金の運用益が依然として最低水準に低迷している中で、第4次明日香村整備計画(平成22~31年度)とあわせた景観の維持・向上や観光振興など明日香村の主体的な取組みによる地域活性化を図るため、平成27年度以降についても、同様の措置を継続すべき。あわせて、近年ニーズが高まっている滞在型観光の実現など、観光・交流による魅力向上の取組みへの支援を図るべき。

住民生活の安定のため、きめ細かな事業の財源として「明日香村整備基金」を設置(S55)

【予算】
国24億円 県 6億円 村 1億円

第1回小委員会の指摘事項

- 国・県・村そして住民の協力によって、明日香村整備計画や整備基金などによる歴史的風土の保存と住民生活の調和を図るための措置が講じられるよう尽力する。[2.5)①]



明日香村整備基金運用益及び明日香村歴史的風土創造的活用事業交付金の推移